

所 属 鳥取県漁業協同組合（網代港支所）

氏 名 いたくら あつし
板倉 淳司 （34歳）

船 名 みょうしんまる
明 信 丸 72トン

漁業種類 沖合底びき網



～男の仕事は地道に継続していくことが大事！～

板倉さんは、網代の沖合底びき網漁船、明信丸の船長である。高校を卒業した翌週には沖底船で出漁し、経験を積んだ。しかし、最初の航海では船酔いがひどく全く動けなかったそうだ。次の航海も酔いは収まらず、働くことはこうも厳しいものかと思いながらも、とにかく動いた。ましにはなったが、今でも船酔いすることがあるそうだ。

板倉さんは網代の沖底船船長の中で一番若い。若い分、新しい機器の取り扱いには長けていると思っている。だが、今でも地道な努力を続けるベテラン勢とは、気象の読みや漁場選びなどでまだまだ差があると感じる。それでも船長として船を支えていく気概を持って、「出漁時はいつだってドキドキするが、怖がらずに楽しむ」という姿勢で臨んでいる。

船員も 20～30 代の若い人が中心だ。「沖底漁師は賃金も良いし、社会的な保証も比較的厚い。一生続けて欲しいし、その価値がある」と強く自負する。若き船長は船員の稼ぎ、船の安全のために今日も地道な努力を続ける。

～いつかは子供とアウトドア～

板倉さんは根っからのアウトドア派で、休みの日もバイクで魚釣りやキャンプに出かけている。今は家で小さくかわいいお子さんのお世話を楽しんでいるが、大きくなったら一緒にキャンプへ行くことを夢見ている。

（文責：田中 秀一）